NEWSLETTER

マネージメント情報

2009年4月

この記事は、機関誌や日常の出来事の中からわれわれが注目した話題を皆様に提供するものです。
ご質問、ご要望などなんでもお寄せくだされば、今後テーマとして取り上げたいと思います。

マネージメント情報

※ 韓国の肉牛(韓牛)事情

今回は視点を変えて韓国の肉牛事情について紹介します。
先日、富士平工業の方から韓牛の肉質のブランド化が進んでいるという話しを聞きました。 富士平工業は現在繁殖検診で使用している超音波診断装置を販売している会社で、屠殺前の生体でも超音波装置を利用することで枝肉(産肉能力)の判定ができる製品(超音波肉質診断装置:スーパーアイミート)を販売しています。
昨年秋にこの製品の講習会を宮崎県で開催したところ、韓国から120名の申込みがあったということでした。(結局、昨年のウォン安の影響で40名の参加だったそうです)
その一番の理由は、韓米自由貿易協定(FTA)が、2007年4月1日に合意されたことで、牛肉は15年、冷蔵豚肉は 10 年をかけて段階的に関税が撤廃されることとなっているからです。このようなFTAをはじめとする市場開放政策の中で、韓国では輸入農産物に対抗するため国産農産物の差別化(ブランド化)が推進されているということです。
この場合の差別化というのは和牛の肉質に近いサシの入る韓牛を選抜し改良していくということで、日本にも安い良質の韓牛が輸入される可能性が高いということになりますし、ましてや大手スーパーや外食産業などが飛びつくことは十分に想像できます。
あるいは和牛に近い肉質の韓牛がアメリカに輸出されて回りまわって日本に入ってくるということにもなりかねません。
日本がFTAやWTOの批准に抵抗している間に、お隣の韓国に追い越されてしまうということもあるということです。
現在の韓牛の頭数は 220 万頭(H20 年度)、数年で 300 万頭に増加するとも言われています。人口 5,000 万人の国(1億 3,000 万人の 38.5%)でこの頭数にも驚かされてしまいます。

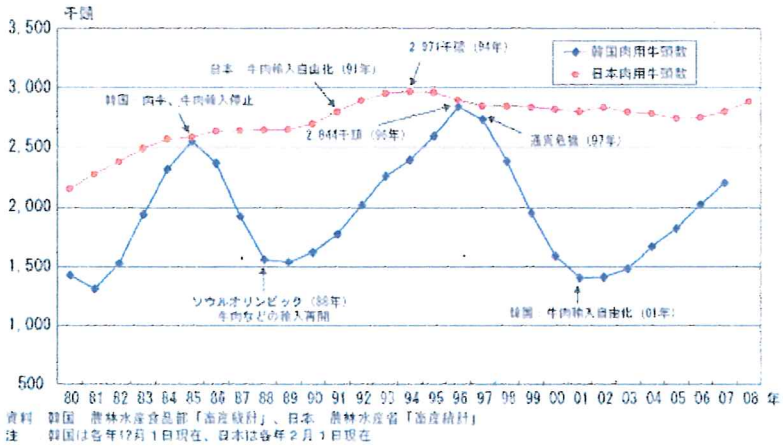
表1 牛飼養頭数の推移

(単位千頭)

	肉用牛合計	韓牛	うち韓牛雌(妊娠可能牛)	乳おす	乳用牛	うち妊娠可能牛
1990	1,622				504	
1991	1,773				496	
1992	2,019				508	
1993	2,260				553	
1994	2,393				552	
1995	2,594				553	
1996	2,844				552	
1997	2,735				544	
1998	2,383				539	
1999	1,952		854		535	364
2000	1,590		687		544	372
2001	1,406		613		548	378
2002	1,410		605		544	369
2003	1,480	1,277	622	203	519	356
2004	1,666	1,473	705	193	497	342
2005	1,819	1,633	777	185	479	328
2006	2,020	1,841	871	178	464	319
2007	2,201	2,034	941	167	453	310

資料:韓国農林水産食品部「畜産統計」
注:各年12月1日現在

図1 日韓の肉用牛飼養頭数推移



資料 韓国 農林水産食品部「畜産統計」、日本 農林水産省「畜産統計」
注 韓国は各年12月1日現在、日本は各年2月1日現在

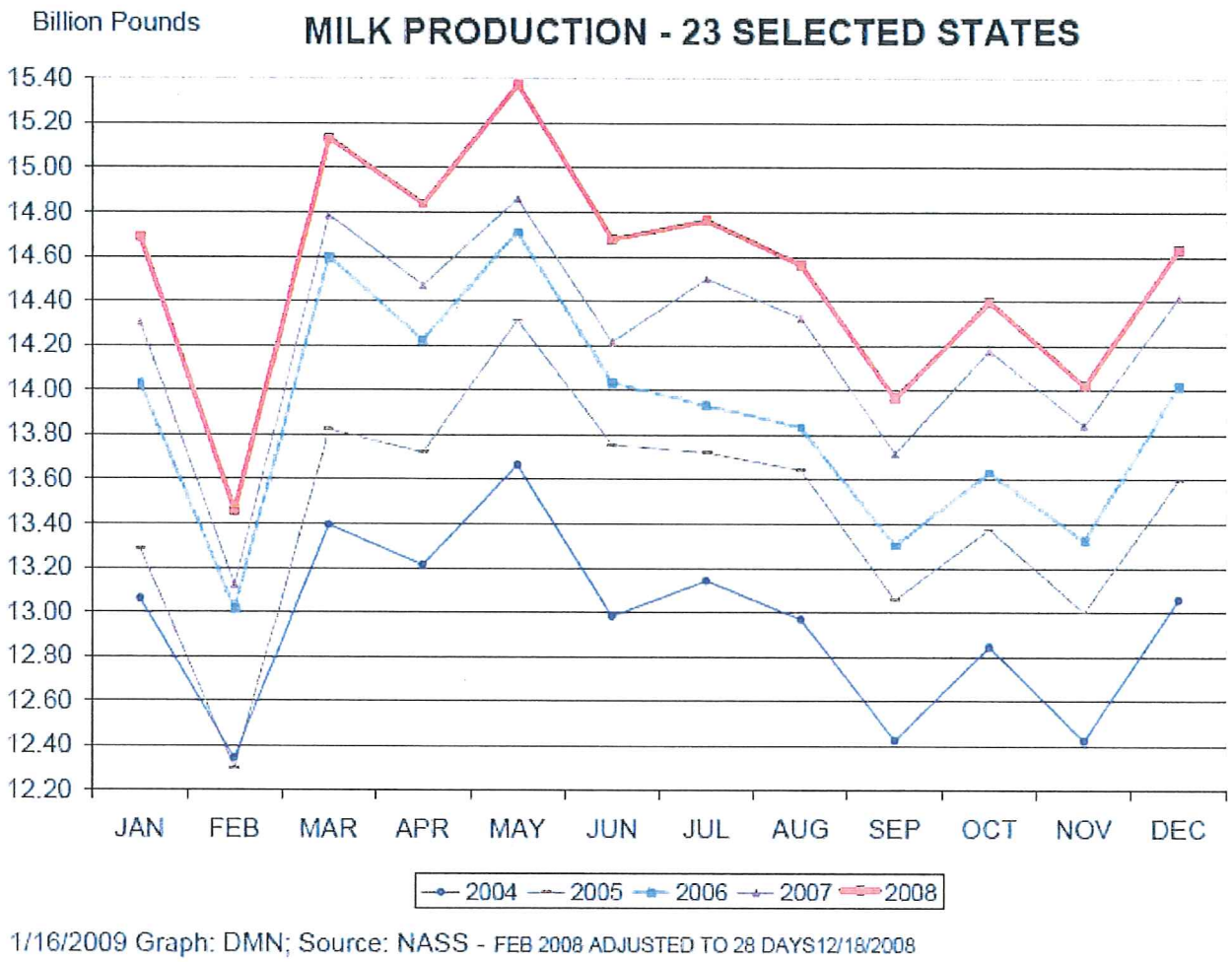
※ 鷲山さんからの情報(H21.2。15)

米国の酪農危機

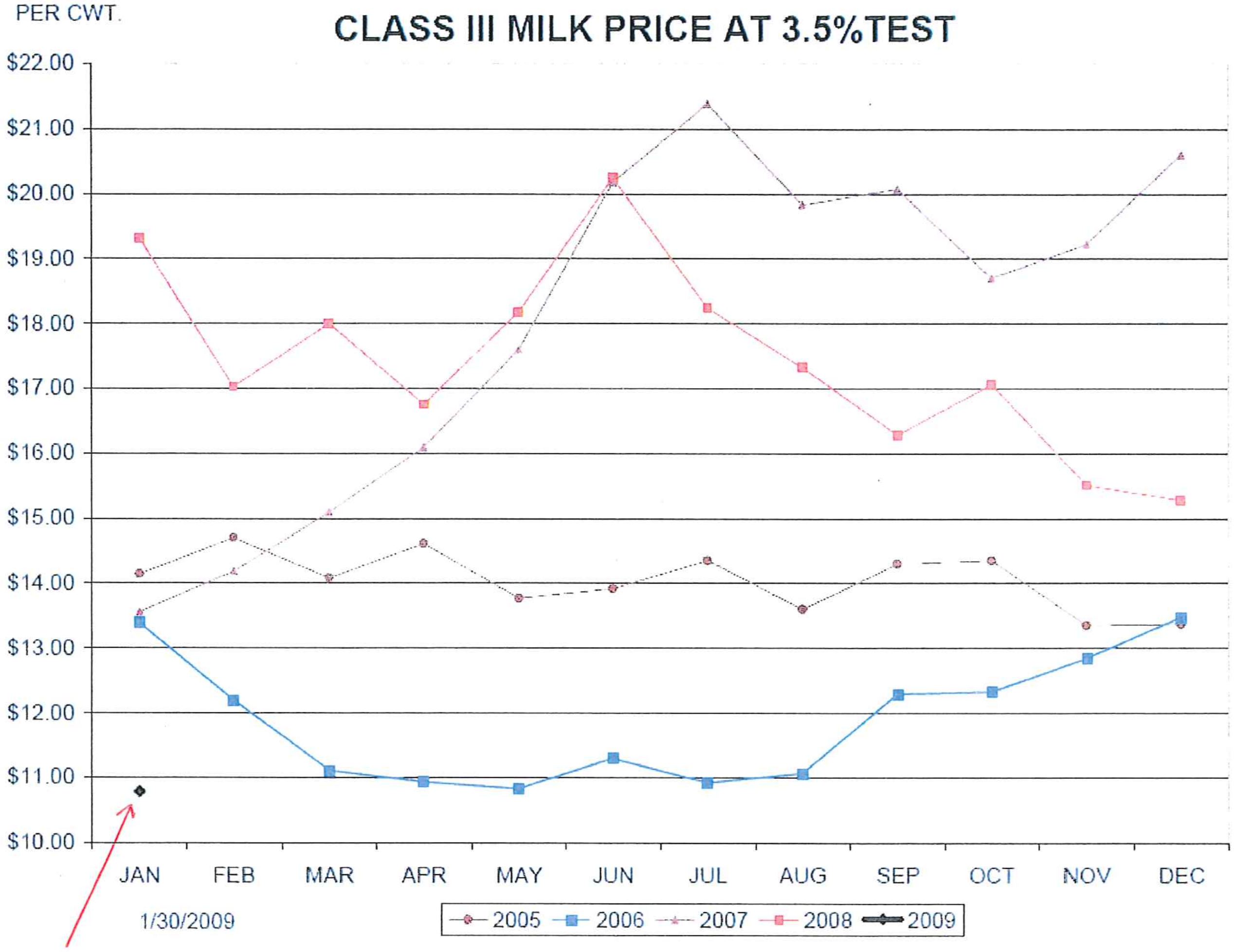
先週、カリフォルニア州中央に位置する酪農地帯の都市、Tulare 市で開催されたワールド・アグ・エキスポに行ってきました。以前、ファームショーと呼ばれていましたが、ウィスコンシン州のマディソン市で開催されるワールド・デーリー・エキスポに対抗して名前が変更されました。
今年の展示社数は1600 社に及んでいました。こちらは酪農だけではなく、農業全般にわたる農業ショーですので展示も酪農関係、果樹、花、農機具、農薬など幅広い出展となっています。
タイトルに書きましたように昨年12 月から乳価が急落しており、世界の経済危機と同様に酪農も危機に直面しているためショーに足を運ぶ人数は減少していたようです(ある展示者の声)。
タイトルに「米国酪農の危機」を使いましたが、まさに現在、アメリカ酪農は大変な時期に突入しました。2007 年には歴史的な乳価の高価格に恵まれ、2008 年も引き続き史上2 位の記録を達成しましたが、昨年12 月から乳価は急落してきました。過去2 ヶ月で乳価は2008 年度夏の50%にまで低下しました。今年1 月のシカゴマーカンタイル取引所のクラスIII(ハードチーズ向け)乳価は100 ポンド当り9.24 ドルの安値をつけ、米国農務省の予測では2009 年度のクラスIII 乳価は100 ポンド当り10.60-11.40 ドル(2008 年度平均は17.44 ドル)としています。アナリストの予測では、2009 年前半は乳価低迷が続き、後半から生産費がカバーできるくらいに上がるであろうとされています。ウィスコンシン大学のエコノミストはより具体的に示し、1、2 月が最
低で4、5 月頃から上がり始め、2009 年度後半では100 ポンド当り15-16 ドルになるであろうと予測しています。
現在、アメリカで言われています損益分岐点は100 ポンド当り16 ドルであり、この乳価では生産すればするほど赤字を生むことになります。先週の農業ショーで酪農関係者から聞いた話では1 日1 頭当り5 ドルのロスが発生しているそうです。1 月にすれば1 頭当り150 ドルのロスです。他の地方では1 月1 頭当り200 ドルという金額も報告されています。この冬を乗り切れない酪農家も沢山出るであろうとされています。アメリカには60,000 戸の酪農家がありますが、これらの多くが多大な影響を受けると思われます。この影響は購入飼料に依存している西部が甚大で小規模な中西部や東部では飼料の多くを自家生産しているため、この影響は比較的少ないと見られています。
この急激な乳価下落はどうして起きたのでしょうか。業界関係者はこれは需要と供給のバランスが崩れたためと分析しています。世界的な経済危機により消費者は消費を控え、レストランに足を運ぶことが少なくなっています。米国で生産される牛乳の約40%がチーズに使われ、このチーズの約60%がレストランなどで使われています。従って、レストランの利用が減少すればそれだけチーズの消費が減少します。飲用乳の消費はレストランよりも自宅の方が多いため、いくらか消費量が増加すると期待されていますが、価格に対する影響は微々たるものであるようです。
もう一つ大きな影響があるのが酪農製品の輸出ですが、こちらもシャープに低下しているようです。その理由は、まず、輸入国が世界的な経済危機と強いドルのために輸入量が減少しています(ドル建てのため、値上がりになる)。また、酪農製品の世界的なトップサプライヤーであるオーストラリアとニュージーランドが輸出量を増やしています。EU は酪農製品に輸出補助金を復活させ、結果的に市場からの米国品の排除を進めています。米国はこの輸出補助金がないため、今年はさらに減少が進み、25 から35%は減少すると見られています。これらの要因から需要が伸びず、2007 年、2008 年の高乳価で生産を増加させたことによるバランスが崩れたわけです。
(米国の牛乳の生産と乳価の動きを示したグラフをご参照下さい。)
アメリカの牛乳の店頭価格は今のところさほど低下しておりません。USDA が行なった米国30都市の全乳の平均店頭価格は2008 年12 月に1 ガロン(3.785 ℓ)当り3.67 ドルでした。2008 年の夏から25 セントの低下です。私の住んでいる地域でもまだ大きな乳価の低下は見られません。
飼料費は例えば、コーンが一時のブッシェル当り7 ドルを超えた異常な価格から4 ドル弱になって

いますが、それでも過去25 年間の2-2.50 ドルに比べると比較的高く推移しており、燃料費など生産に影響するコストも高く推移しています。生産費の約50%を占める飼料費が2 倍になっているわけですからその犠牲は大きなものです。このように今年のアメリカ酪農は危機に直面しているわけです。

米国23 州の牛乳生産量(2004－2008 年)



クラスIII 乳価(乳脂率 3.5%)



2009 年 1 月

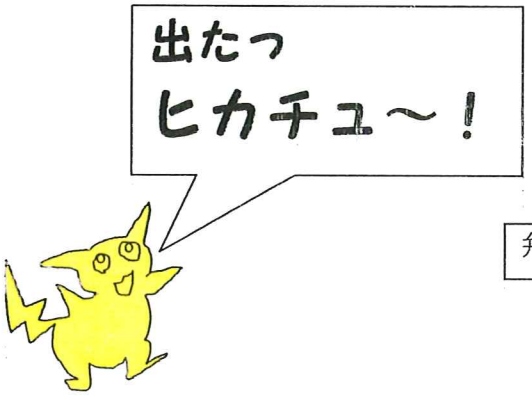
....

- 4 月から新人獣医師・菅原明日香が初めての女性獣医師として入社しました。新人としては西越以来ですので6年ぶりということになります。非常に真面目で目力（私の何倍も）のある子です。一人での診療は夏をメドにと考えていますのでしばらくは随行という形になります。みなさんの農場に伺った際は暖かいまなざしで迎えてあげて下さい。よろしくお願いします。

- 3日程前に突然西越から電話がありました。内容は「自分がスピード違反（赤キップ）で捕まったのはいつでしたか？」というものでした。急に何を言い出すのかと思いましたが、話しを聞くと、医師国家試験は赤キップを切られた経験のある学生は一定の期間国家試験を受験できないということで、その期間が経過しても学長の推薦状がひつようということでした。獣医師の世界しか知らない私としては医師と獣医師、一字違いでずいぶんと違う世界なんだと思いました。彼は無事に3回生に進級でき学生生活を謳歌しているようでした。

21. 04.17. Y

☆Ca 剤の皮下投与の強力な味方が、ついにあのキャラクターから生まれました！



Ca 剤 500ml 皮下投与をいかにも簡単に行うための補助器具を考え続けて早 8 年。
（「ヒカチュー」の名前だけは早期に決定しておりましたが…[高橋理恵さんのオカゲ]）
ローラー絞り方式／空缶つぶし方式等、どれも試作段階でただのゴミとなりました。
しかしこの度、血圧測定用のゴム球を利用した良い「ヒカチュー」ができたのです。

＊ 「ヒカチュー」で皮下注射するには、補液セットを2つ使用することになります。

① 補液セットチューブのプラスチック針の方を切って、ゴム球に連結する。

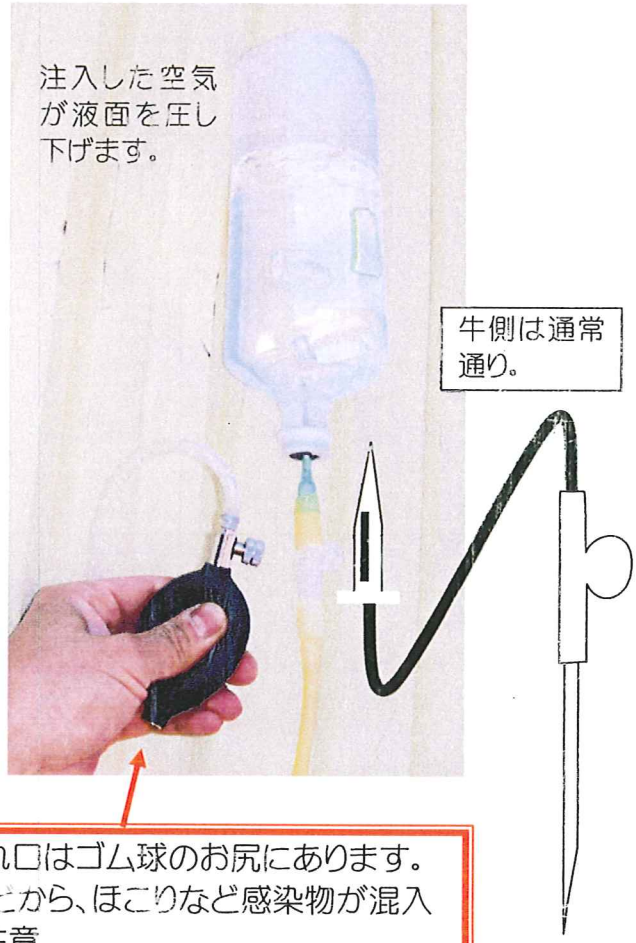
※ この時、ゴム球の弁開閉コックを閉めておくこと（時計回り）。

② 牛を保定し、Ca 剤のボトルを吊るす。

③ ①できた「ヒカチュー」をボトルに刺す（右図）。

④ 牛に皮下注射する。

⑤ 「しゅぽしゅぽごぼごぼ」する。



※ 終了した時点で、牛から針を抜かなければ、皮下に空気が入ってしまうので注意。

※ 空気取り入れ口はゴム球のお尻にあります。汚い軍手などから、ほこりなど感染物が混入しないよう注意。

これは早いし、
きれいに入るし、
楽でヒッカ～！！

４月から獣医師としてお世話になっている菅原明日香(すがわらあすか)と申します。
どうぞよろしくお願いいたします。

1980 年代１月１日に福島県いわき市で生まれ、埼玉、京都、神奈川に住んでいました。そして、酪農学園大学を卒業し、今年の３月に国家試験に合格しました。
2001 年に別海で酪農実習をさせていいただいたことがきっかけで、牛の獣医師になりたいと考えるようになりました。酪農の基本は「牛の健康」であると感じたからです。酪農家と獣医師、人間と家畜のより良いパートナーシップの創造の実現のための役割を少しでも担えれば幸甚と思っています。
今は、久しぶりに牛に触ることができる喜びを感じながら研修中です。往診随行の他に酪農実習もさせていただいています。毎日すてきな人や牛に囲まれて充実していますが、勉強する時間が足りないのが少し残念です。これからは、これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに一生懸命働きます。

↑私　　↑小岩先生

好きな観光地
開陽台

好きなタイプ
目が輝いていて、黒い毛が多い牛

2009 年４月　菅原明日香